

六箇地区住民アンケート 結果等報告書

令和2年3月
六箇地区振興会
十日町地域振興局地域づくりサポートチーム

アンケートへの協力の御礼と結果の報告

昨年（令和元年）10月に、六箇地区振興会と十日町地域振興局地域づくりサポートチームが、地区住民のみなさまのご協力を得て実施した「六箇地区住民アンケート」の結果を本書のとおりまとめました。

みなさまのご協力に感謝し、報告書をお届けしますので、ご確認くださるようお願いいたします。

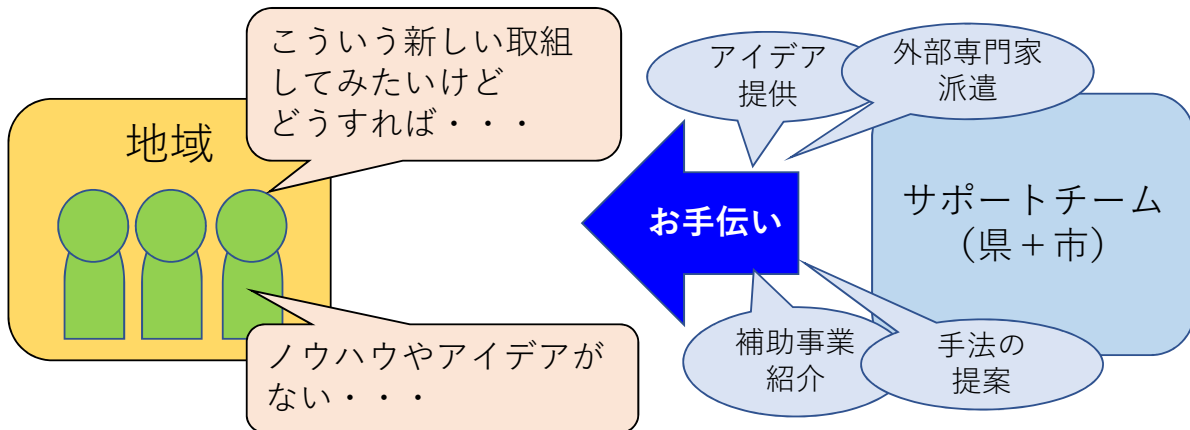
なお、この報告書では、アンケート結果及び結果から読み取れるポイントに加え、サポートチームからの「今後の取組のアイデア等」もコメント的に記載してあります。

はじめに

■ 地域づくりサポートチームって？

県と市の職員が分野横断的なチームを組み、令和元年度～3年度の間、**地域課題解決に対して意欲がある地域**を支援する事業です。県内各地の合計12地域で取り組んでいます。

十日町地域では、6名の地域振興局職員と1名の市職員がチームを組み、六箇地区に関わっています。



■ 六箇地区の課題

- **少子・高齢化**で地域の元気がなくなりつつある。
- **外部交流**を増やして、地域を元気にしたい。
- **各種の事業が高齢化や予算不足により運営が困難**になってきた。

■ 地域づくりサポート事業により具体的に取り組みたいこと

以下のイベントを軸にした交流人口増加による地域活性化

- 「妻有街道歩け歩け大会」
- 「雪まつり雪像づくり (日大との交流)」
- 「二千年蓮祭り」など

これらのイベントが、担い手不足や予算縮小の中でも継続できるように！

■ 地区内の交流・その他課題に対する取組の検討

■ アンケートの目的

- ・ 年代別、男女別に、住民ひとりひとりの率直な意見を聞きます。
- ・ 回答を分析し課題を浮かび上がらせ(見える化)、共有します。

■ アンケートの内容

主な3つのイベントに関する設問のほか、
幅広い地域課題の設問も設定。

年代別・男女別に整理することで、
考え方や困りごとの違いも見えてくる！

■ アンケート結果の活用

- ・ 見える化した結果の「原因」や「理由」を考え、解決に向けた「課題」を抽出しましょう。
- ・ 課題について、解決や改善のために何ができるかを考えましょう。

“もうひとつの特異点”

アンケートの概要

- 実施期間
R1.10.4～10.21
- 対象者
六箇地区在住の中学生以上の全住民
- 回収率
88.5%（配布384,回収340）

回収率は極めて高いです。

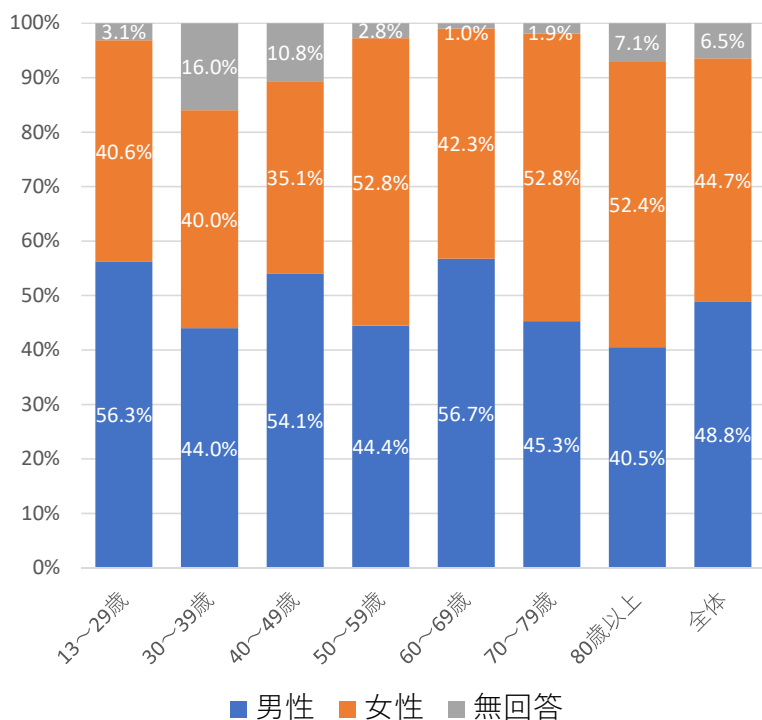
（70%を超えたら高いと言われていました。）

直接配布・回収いただいた手間と、住民のみなさまの
関心の高さのおかげだと考えています。

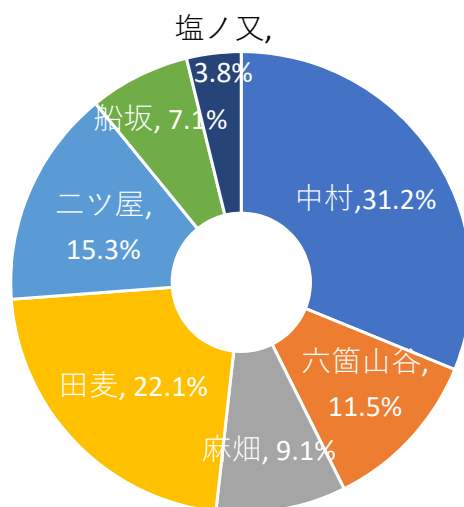
ご協力ありがとうございました。

回答者属性

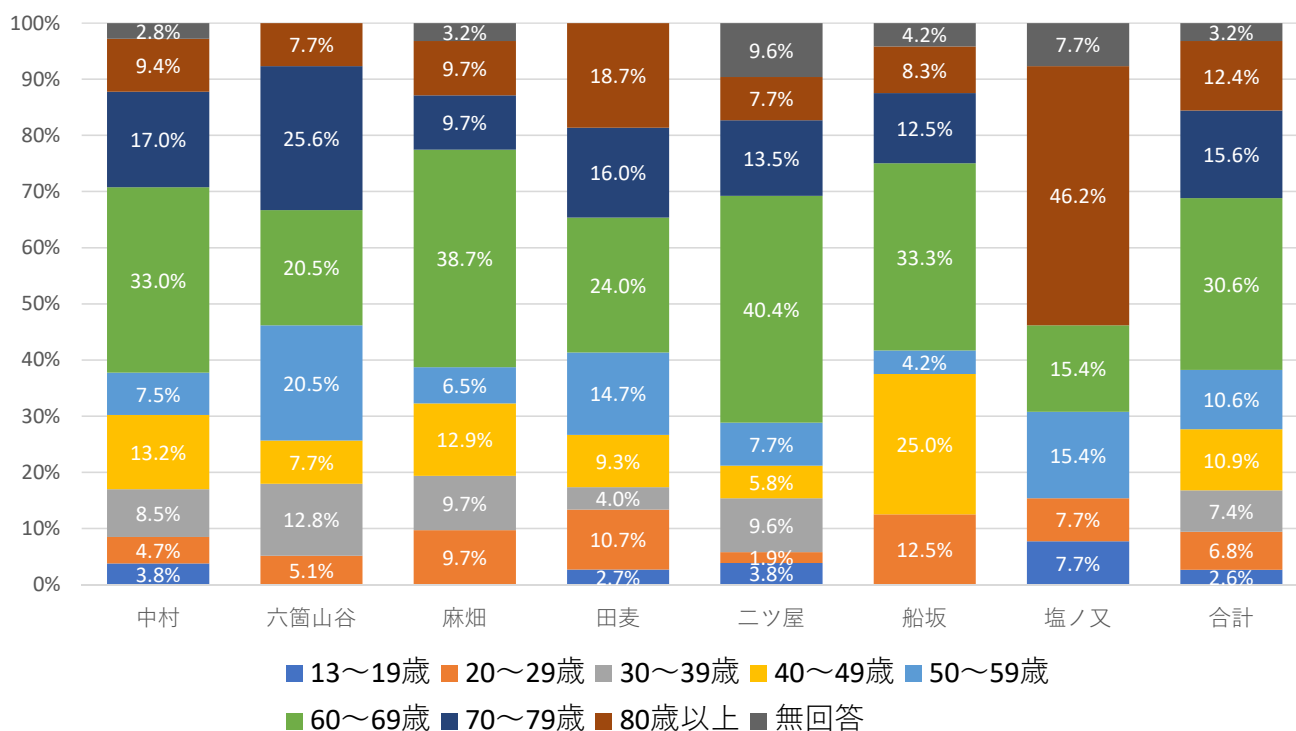
回答者属性（年代×男女）



回答者属性（居住地別）



年齢構成（地区別）



地区を合計すると、60歳代以上の割合が58%と高く、どの集落でも概ね同様。一方、20歳未満は全体の2.6%で、存在しない集落もある。
 ※10代の人数が少ないので、以降の分析結果は10代と20代を合算して表示。

目次

「1 主なアンケート結果（ポイント別）」

(1) 地域活動の企画運営（問5）…P8

- ・ やってみたいと思っている若手はいる！
→ どのように関わってもらえるか？

(4) 雪像づくり（日大との交流）（問6-C）…P11

- ・ 現状、参加者の多くは田麦の住民
（少ないが、他の集落からの参加もあり）
- ・ 不参加理由は、高齢・仕事・他地域など

(2) 二千年蓮祭り（問6-A）…P9

- ・ 現状、参加者の大半は二ツ屋の住民
- ・ 予定が合わない、行事を知らないという人も多い

(5) 他地域の住民との交流（問9 問10）…P12

- ・ 交流意欲としては、
市外との交流 < 六箇の他集落との交流

(3) 妻有街道歩け歩け大会（問6-B）…P10

- ・ 各集落で一定の参加者がいる
- ・ 高齢者は体力的に難あり（自由意見に多い）

(6) 日常生活の不安・困りごと（問8）…P13～14

- ・ 世代によって、困りごとは違う！
共通：買い物・公共交通・除雪
10～30代：気軽に集まる場・子供の遊び場

「2 その他のアンケート結果」

(7) 地区内で過ごす時間（問3）
…P16（上段）

(8) 清掃活動の参加状況（問4-A）
…P16（下段）

(9) 防災・防犯活動の参加状況（問4-B）
…P17（上段）

(10) 祭り・イベントの参加状況（問4-C）
…P17（下段）

(11) 地域団体活動の参加状況（問4-D）
…P18（上段）

(12) 知ってほしい、続けていきたいイベント
（問7）…P18（下段）

(13) 六箇地区に住み続けたいか（問11）
…P19（上段）

(14) 子・孫世代に六箇に住んでほしいか
（問12）…P19（下段）

(15) 自由記入
…P20～P21

「3 サポートチームからのコメント」

…P22～P25

「（参考）第39回妻有街道歩け歩け大会に参加した感想」…報告書末尾に添付

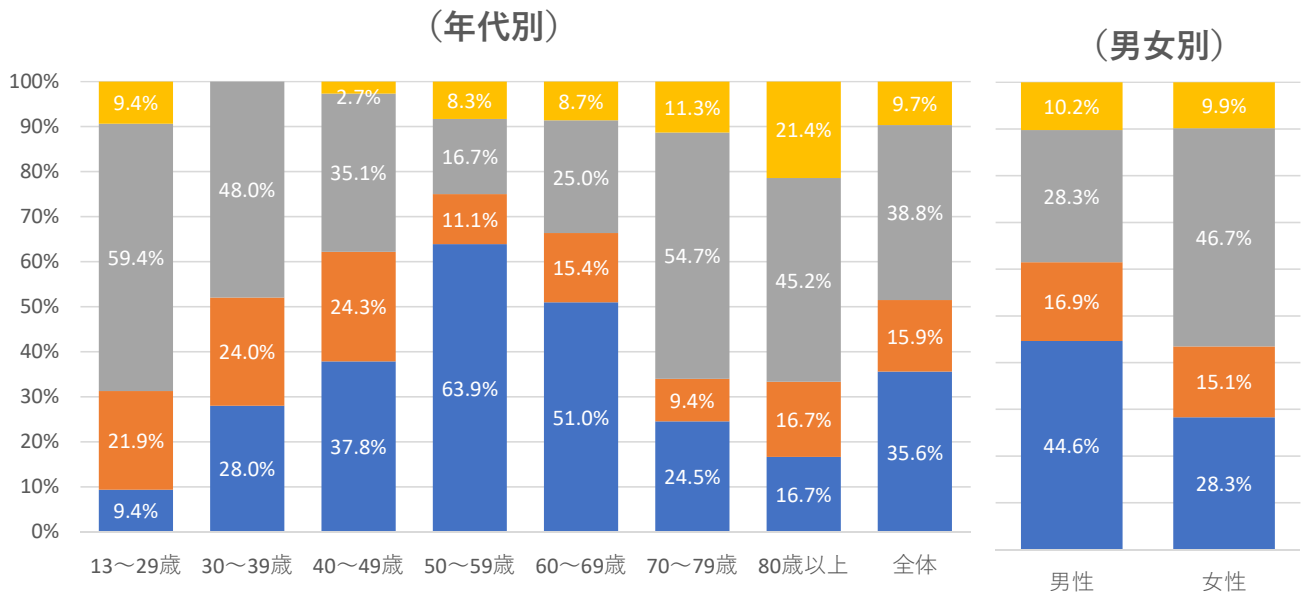
1 主なアンケート結果（ポイント別）

六箇の6月



六箇
×
地域づくりサポートチーム

(1) 地域活動の企画や運営への関心 (問5) ①



■ 無回答

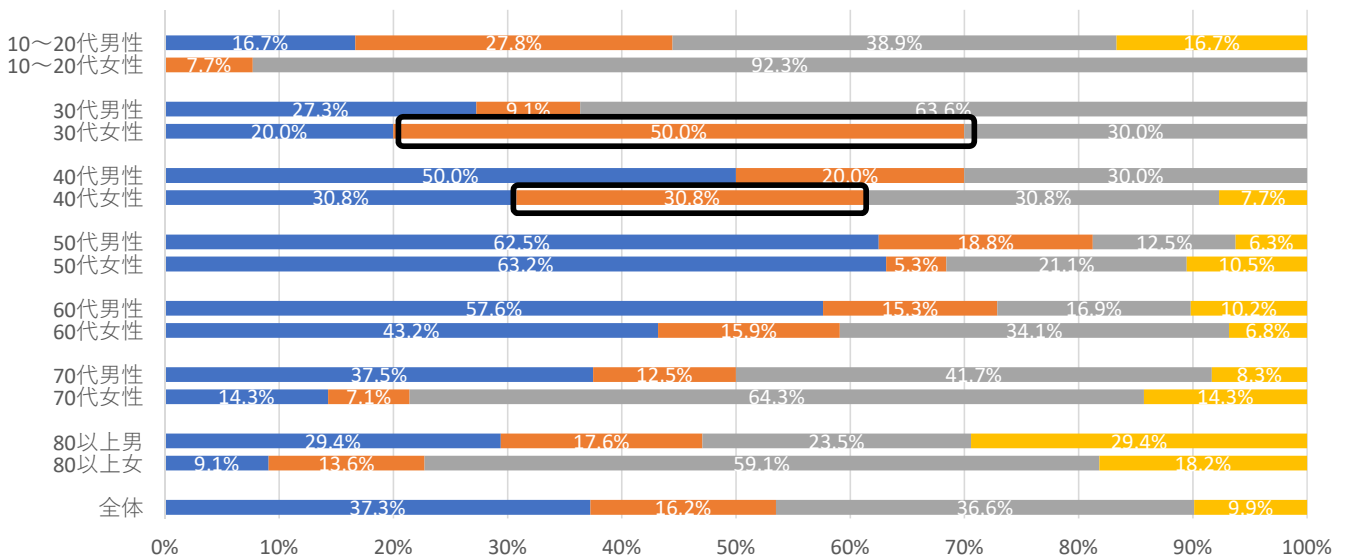
■ 関わっていないし、今後も関わろうと思わない

■ 関わっていないが、今後は関わってみたい

■ すでに関わっている

興味がない人は多い。
(全体の38.8%)
しかし、今後は関わってみたい
と思っている人もいます!

年代×男女



■ すでに関わっている

■ 関わっていないが、今後は関わってみたい

■ 関わっていないし、今後も関わろうと思わない

■ 無回答

● 「すでに関わっている」

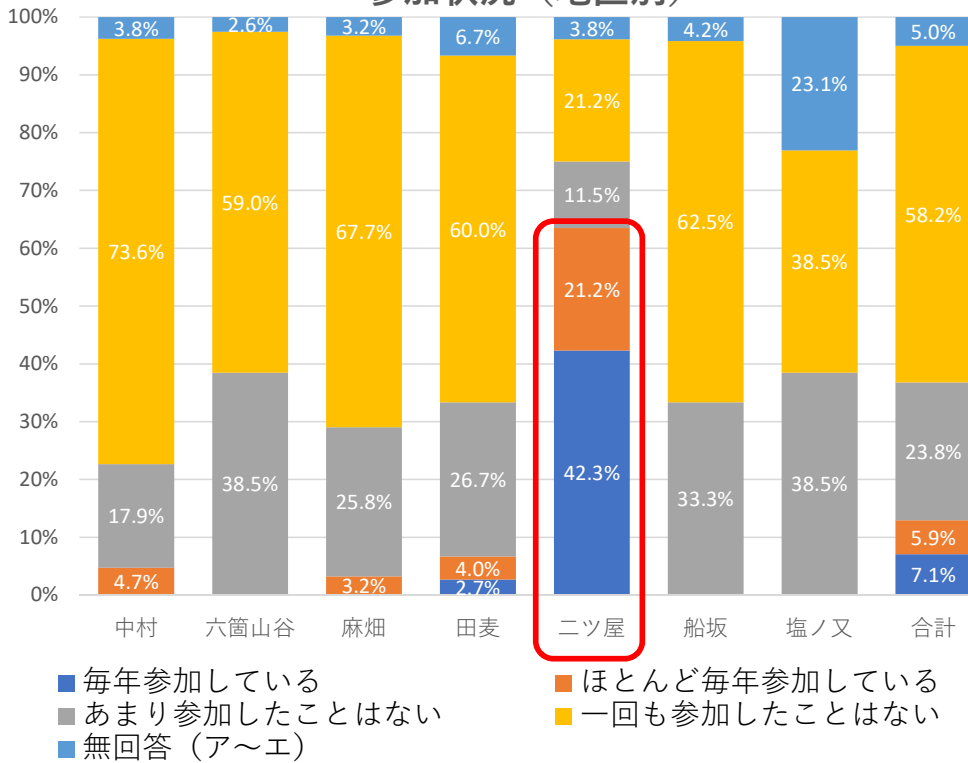
50代が最多。40代・60代も多いが、いずれも男性が多い。→ 10~20年後どうなる？

● 「関わっていないが、今後は関わってみたい」

どの層にもいるが、30代・40代女性に多い。→ 声かけなどにより関わりを生みたい!

(2) 二千年蓮祭り(問6-A)

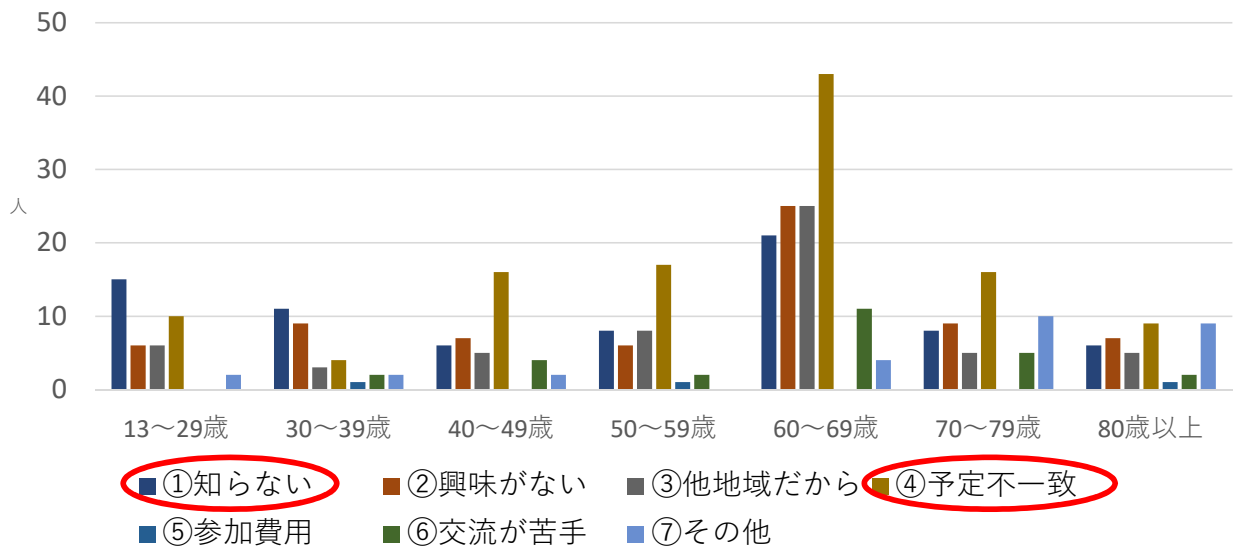
参加状況 (地区別)



● 参加者の大半はニツ屋の住民。

→ 他集落からの参加を増やす方向か、ニツ屋の皆さんが楽しめれば十分なのか。

不参加理由 (年代別)



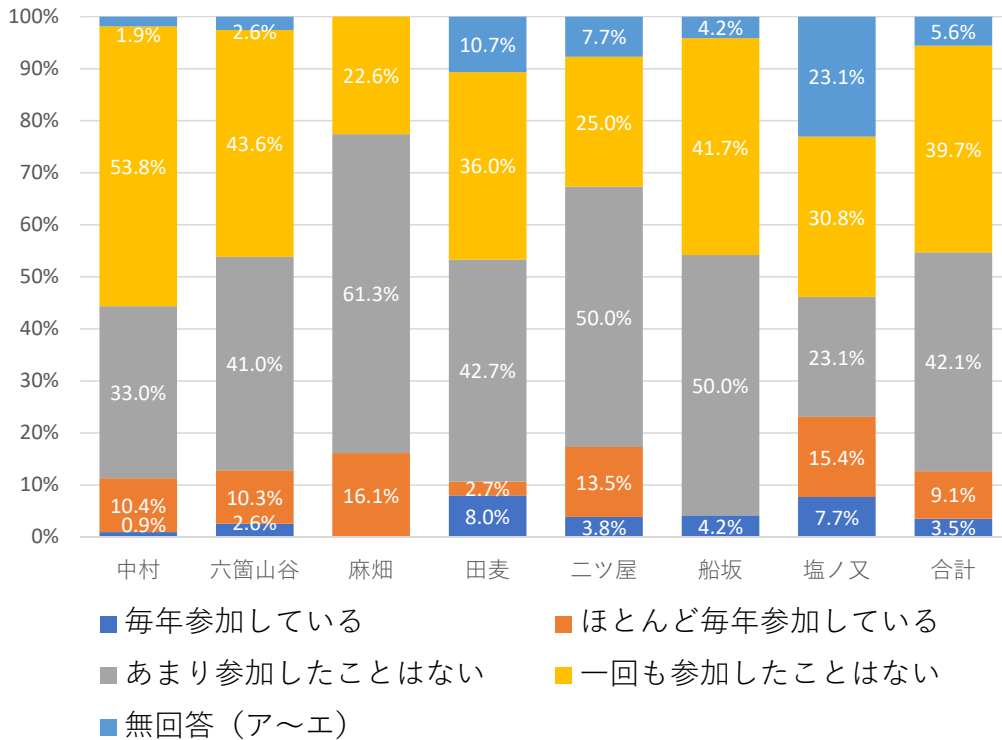
● 予定の不一致が多いが、イベント自体知らない人も目立つ。

→ 周知をしっかりとれば参加者が増える可能性あり。

ただ、参加者増に伴う対応（準備、当日）が可能か等の検討が必要か。

(3) 妻有街道歩け歩け大会 (問6-B)

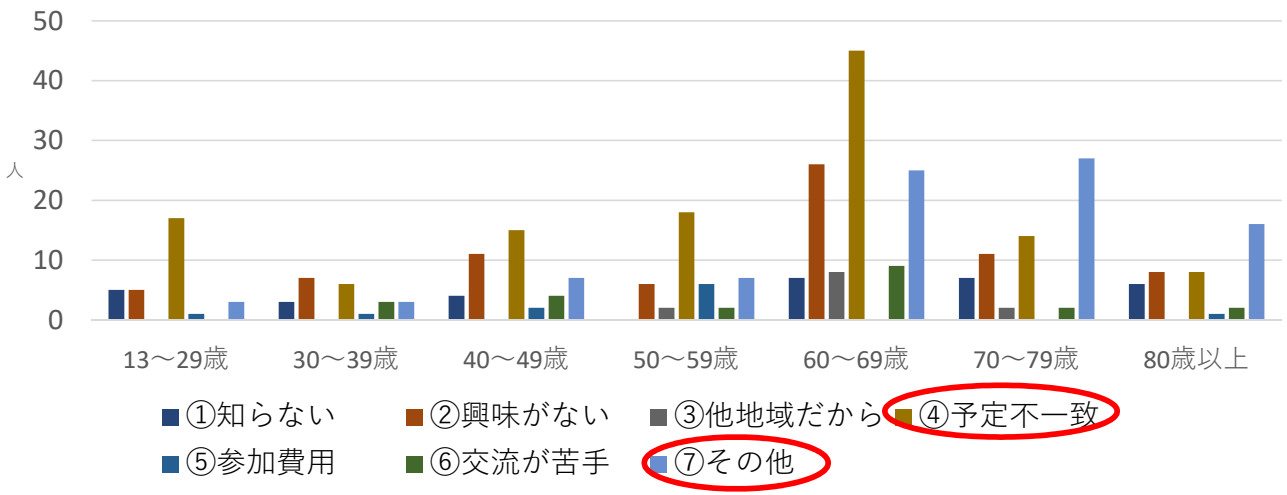
参加状況 (地区別)



● 各集落で一定の参加者がいる。
 → 全集落がコースに含まれているため、色々なところから参加あり。



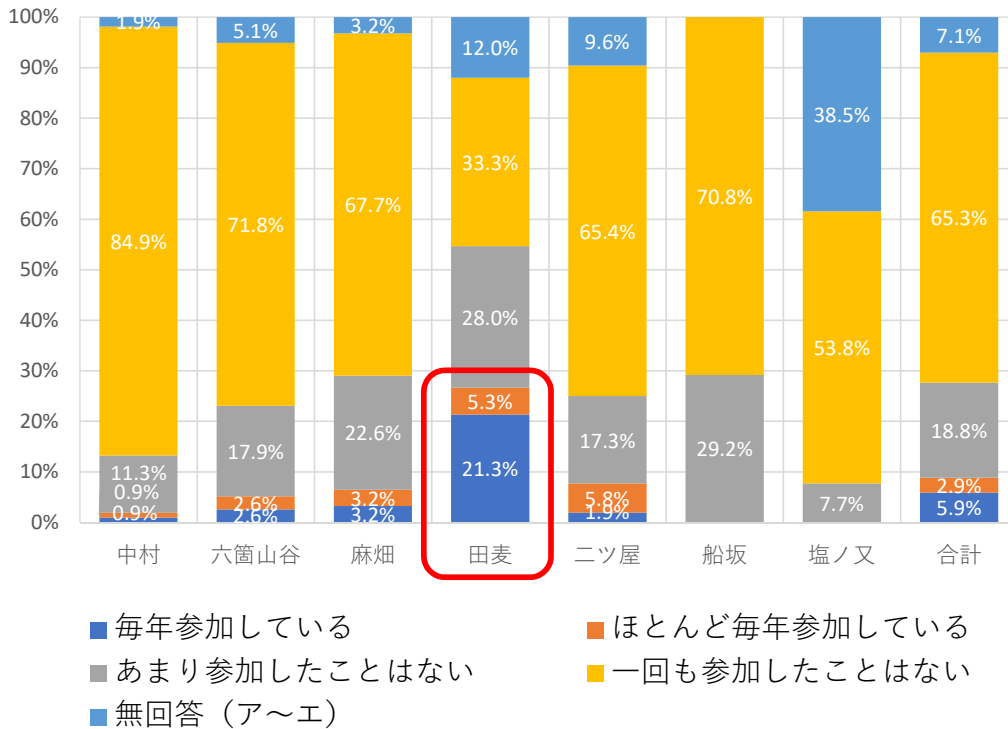
不参加理由 (年代別)



● 「予定不一致」が多い。(地区全域がコースのためか「知らない」は少ない。)
 ● 高齢者は「その他」も多い。
 ほとんどは体力面の理由(「昔は参加していたがもう体力が厳しい」など)。
 → コースの見直し(歩く距離を短くしたコースの設定など)や、歩かなくても参加できる役割の検討もできる。

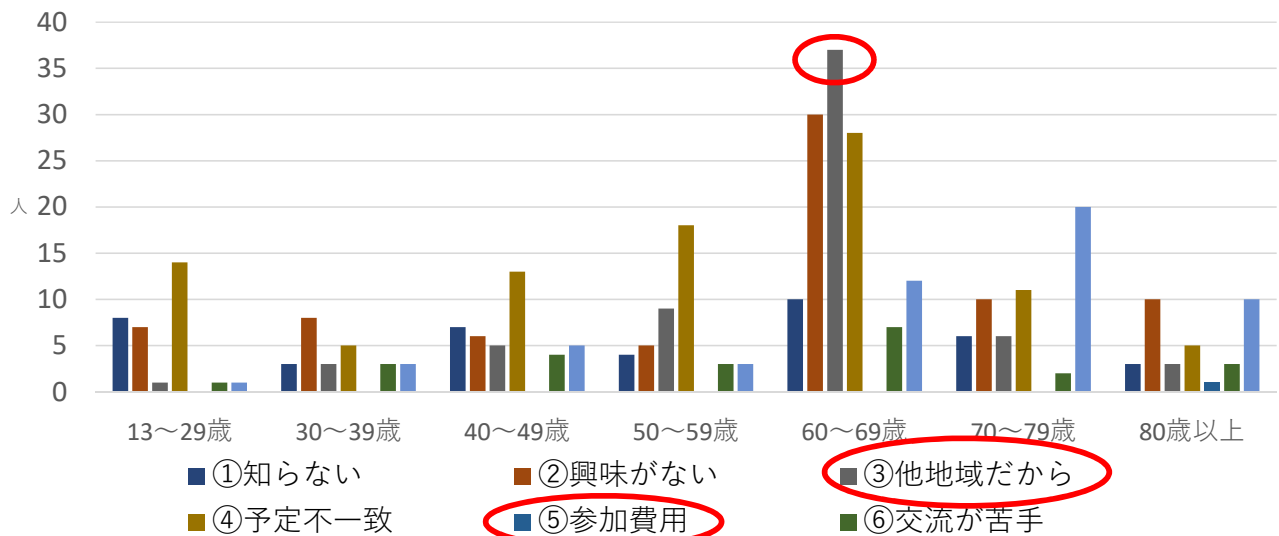
(4) 雪まつり雪像づくり (日大との交流) (問6-C)

参加状況 (地区別)



- 参加者の多くは田麦の住民だが、近隣集落からも参加あり。

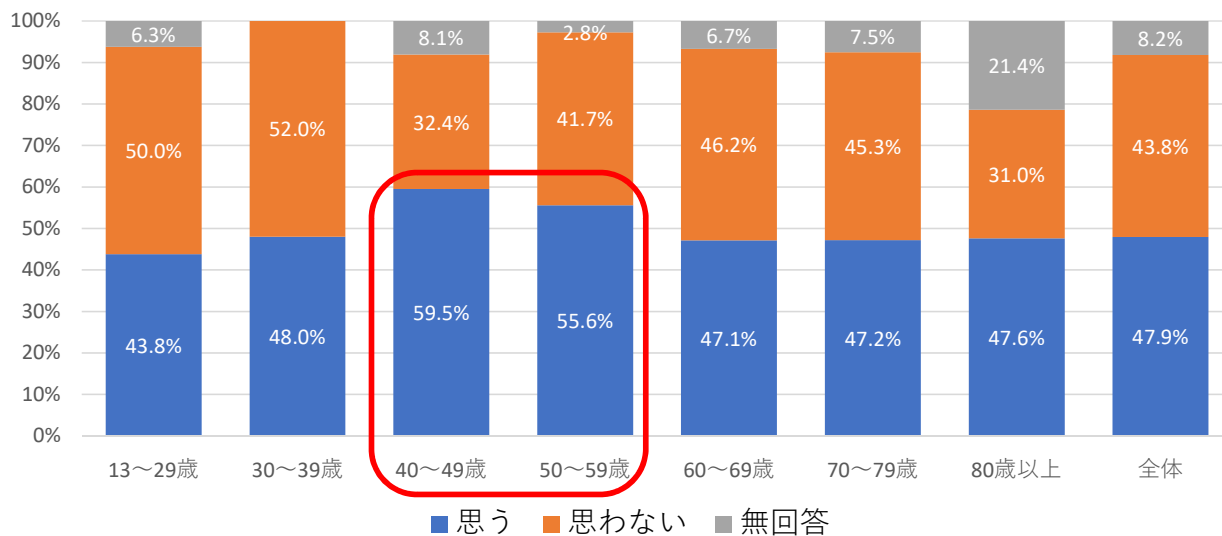
不参加理由 (年代別)



- 「予定不一致」が多く、60代の方は「他地域だから」も多い。
 - 高齢者は「その他」も多く、ほとんどは体力面の理由。自分の集落で雪像を作らないことを理由に挙げる人もいる。
- 参加者 (支援者) を増やす方向か、日大との交流が続けられれば良いのか。

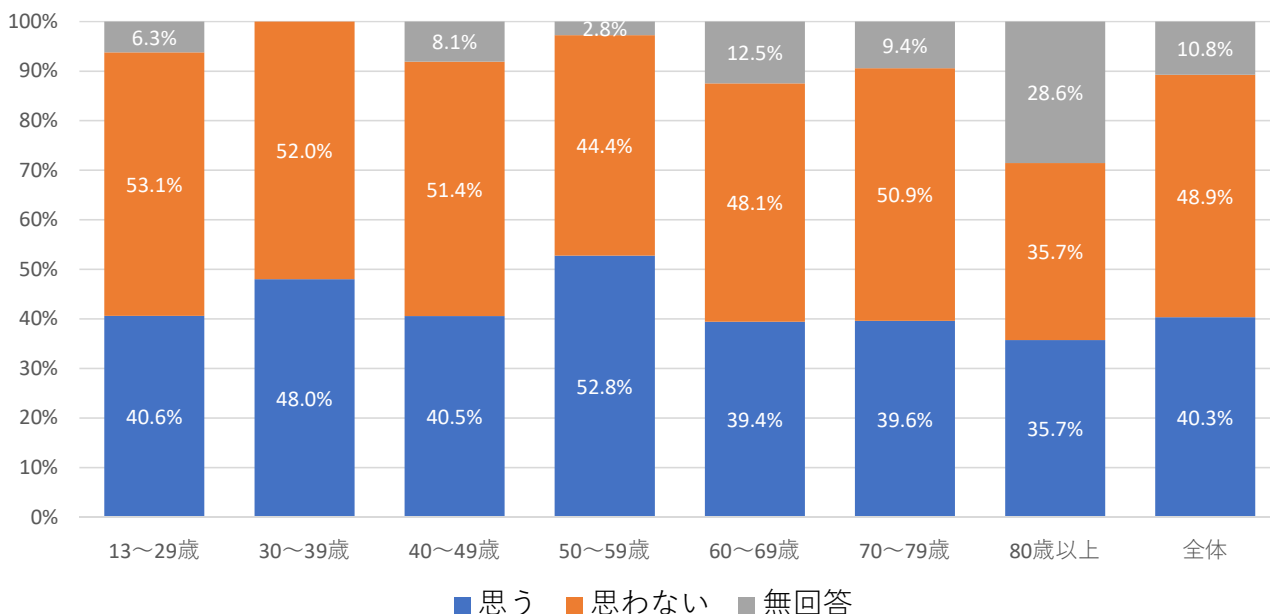
(5)他地域の住民との交流（問9 問10）

六箇地区内の他の集落との交流を行っていききたいと思うか
(年代別)



- 40代・50代は「思う」の割合が高め。
→ 祭りやイベントへの関わりが多い世代。
理由については聞いておらず不明だが「自分の集落だけでは行事の運営が困難だから相互に協力できたら」等の意向があるのかもしれない。

十日町市外の人と交流を行っていききたいと思うか（年代別）



- 各世代で、「思う」は「六箇地区の他集落との交流」より少ない。
(ちなみに、集落別では田麦以南の方が多い傾向。)
→ 市外との交流はイメージしづらいのかもしれない。
比較的、地区内交流の方に意欲がある人が多い。

(6)日常生活で不安なこと・困っていること (問8)

全体		備考	
1位	6. 自宅の除雪に関すること	32.2%	10代以外の各世代で1～3位。
2位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	31.9%	10代・50代で1位。ほか各世代で2～4位。
3位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	31.3%	10代・30代・80代以上で1位。40～70代は4位～圏外。
4位	9. 農地や山林の維持管理に関すること	26.1%	60代で1位。40～70代で1～3位。
5位	10. 災害への備えや避難に関すること	24.0%	40代で1位。60代で2位。
圏外	11. 病院の診療料が少ないなど地域の医療体制が充実していないこと	19.8%	意外にも80代以上ではランクインしない。30～70代では20%超え。
圏外	8. 生活道路などの環境整備に関すること	17.9%	40代以上で多い。特に40～60代。
圏外	1. 地域の人とのつながりが希薄なこと	17.6%	30代以上で多い。最多は70代。
圏外	13. 子どもの遊び場が少ないこと	14.9%	10～40代でランクイン (10代は2位、40代は3位) したが、全体だと埋もれてしまう。
圏外	16. 友人や仲間と気軽に集まれる場所がないこと	14.3%	10～30代でランクイン (10代と20代は2位) したが、全体だと埋もれてしまう。

年代別集計

年代別集計 (10代～40代)

10代		20代		
1位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	66.7%	1位 6. 自宅の除雪に関すること	39.1%
	5. バスなどの公共交通が不便なこと	66.7%	2位 16. 友人や仲間と気軽に集まれる場所がないこと	26.1%
3位	13. 子どもの遊び場が少ないこと	33.3%	3位 4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	21.7%
	16. 友人や仲間と気軽に集まれる場所がないこと	33.3%	4位 5. バスなどの公共交通が不便なこと	17.4%
5位	9. 農地や山林の維持管理に関すること ほか4つ	11.1%	5位 13. 子どもの遊び場が少ないこと	13.0%
30代		40代		
1位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	48.0%	1位 6. 自宅の除雪に関すること	27.0%
2位	6. 自宅の除雪に関すること	32.0%	10. 災害への備えや避難に関すること	27.0%
3位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	28.0%	5. バスなどの公共交通が不便なこと	24.3%
4位	11. 病院の診療料が少ないなど地域の医療体制が充実していないこと	20.0%	3位 9. 農地や山林の維持管理に関すること	24.3%
5位	16. 友人や仲間と気軽に集まれる場所がないこと	16.0%	13. 子どもの遊び場が少ないこと	24.3%
	13. 子どもの遊び場が少ないこと ほか			

- 除雪や買い物・公共交通の不便さに困っている人が多数であるほか、10代～40代の若い世代の特徴として「友人や仲間と気軽に集まれる場所」「子どもの遊び場」を求めている人が多いことがわかる。

年代別集計（50代～80代以上）

50代			60代		
1位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	44.4%	1位	9. 農地や山林の維持管理に関すること	33.7%
	6. 自宅の除雪に関すること	44.4%	2位	10. 災害への備えや避難に関すること	31.7%
3位	9. 農地や山林の維持管理に関すること	33.3%	3位	6. 自宅の除雪に関すること	30.8%
4位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	27.8%	4位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	28.8%
5位	8. 生活道路などの環境整備に関すること	25.0%	5位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	27.9%
	10. 災害への備えや避難に関すること	25.0%			
70代			80代以上		
1位	6. 自宅の除雪に関すること	41.5%	1位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	40.5%
2位	9. 農地や山林の維持管理に関すること	35.8%	2位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	38.1%
3位	5. バスなどの公共交通が不便なこと	32.1%	3位	6. 自宅の除雪に関すること	21.4%
4位	4. 買い物をする場所がない又は遠いこと	30.2%	4位	9. 農地や山林の維持管理に関すること	19.0%
5位	10. 災害への備えや避難に関すること	28.3%		1. 地域の人とのつながりが希薄なこと	19.0%

- 40代以上から、「農地や山林の維持管理」への不安も多くなってくる。
各世代で「公共交通」が上位にランクされる理由は何か。
市営バス（六箇線）は使いづらいのか。使い方が知られていないのか。

その他（自由記入・一部抜粋）

- ・ 集落の役員の順番がよく回ってくるのが負担だ。
- ・ 銀行や病院への足の確保が大変だ。
- ・ 空家や空地が多いが、活用されていない。
- ・ 人手不足、高齢化により手分けしてコミュニティを維持することが難しくなり、数人に負担がかかっている。
- ・ 防災・災害などの通信設備がない。
- ・ 県道の街灯が少ない、歩道がほしい。

2 その他のアンケート結果

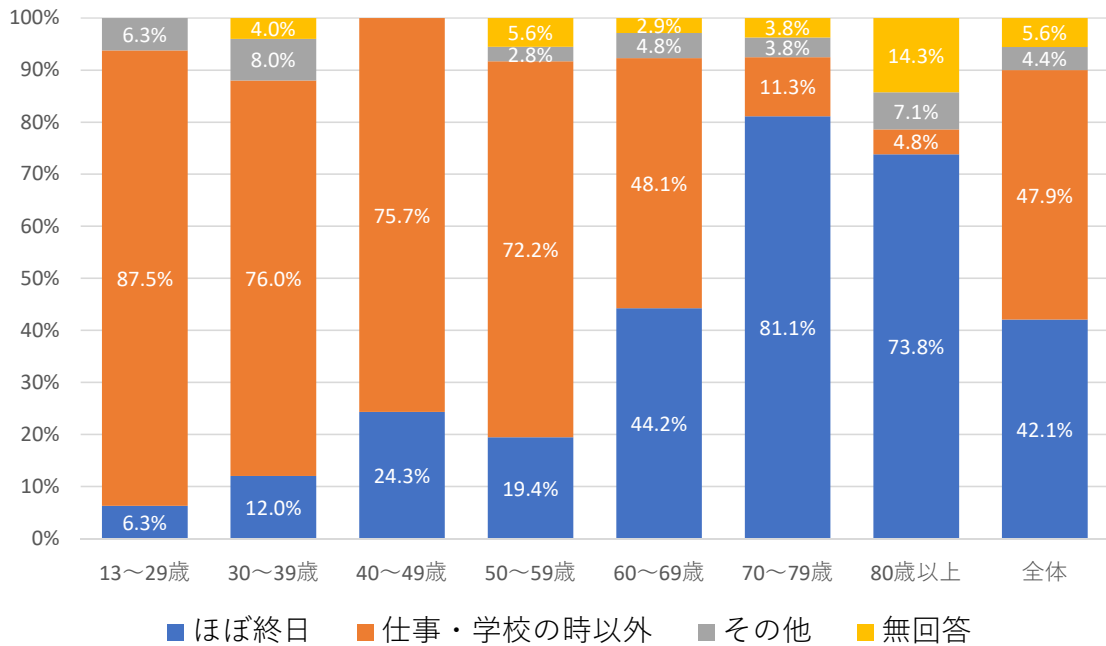
第39回妻有街道歩け歩け大会



六箇
×
地域づくりサポートチーム

(7)地区内で過ごす時間 (問3)

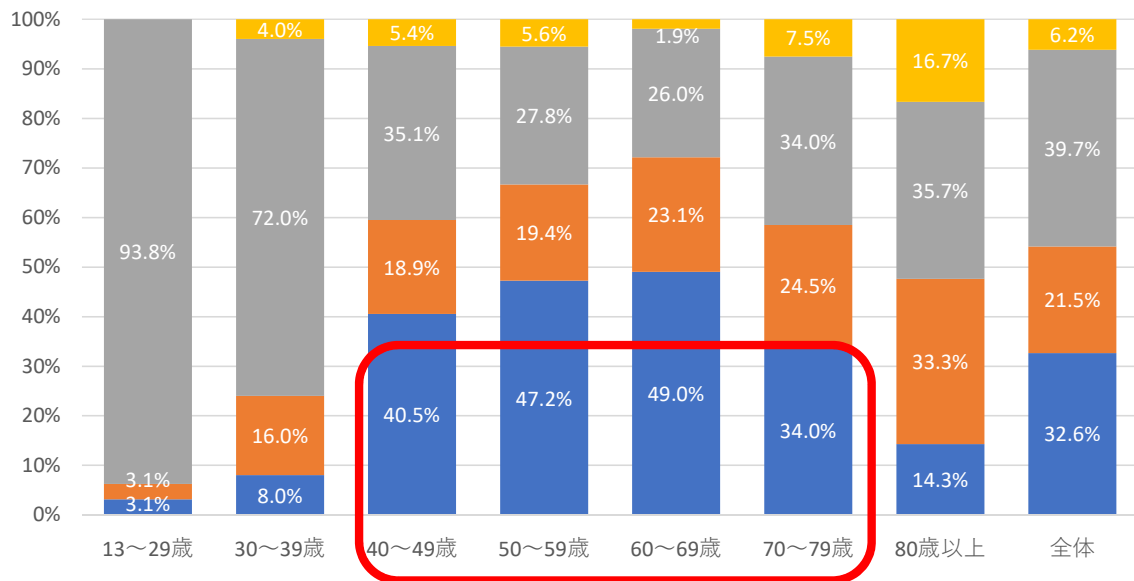
地区内で過ごす時間 (年代別)



- 仕事（学校）のときは六箇地区にいない人が多い。
→ 70代以上では集落内で過ごす人がほとんど。

(8)清掃活動 (草刈り・側溝清掃など) の参加状況(問4-A)

清掃活動参加状況 (年代別)

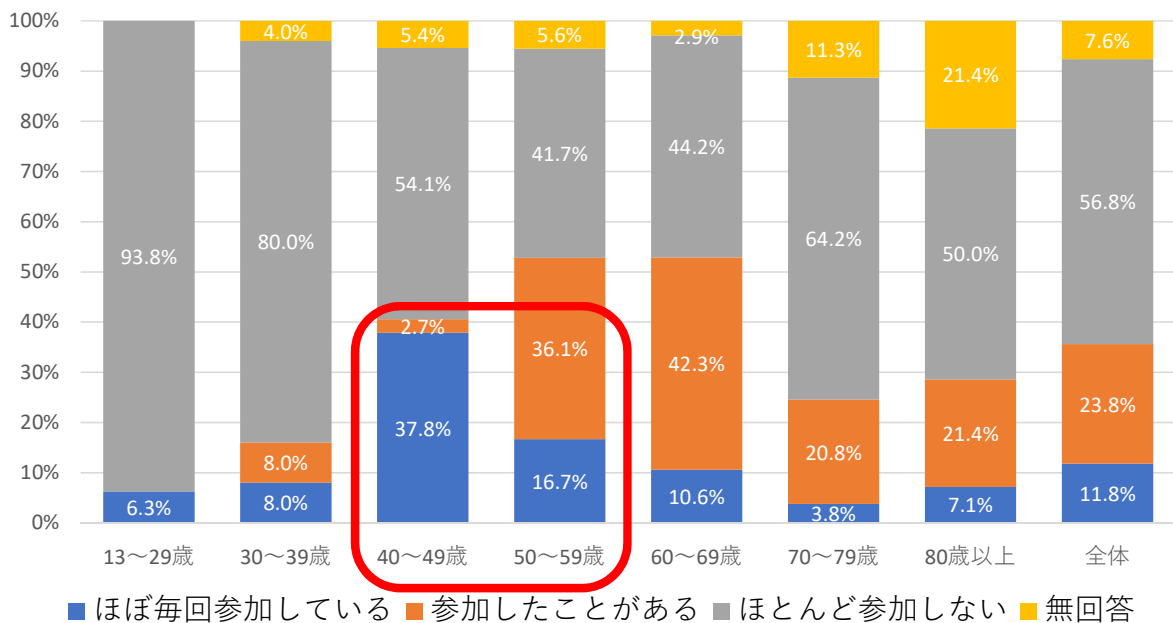


- ほぼ毎回参加している ■ 参加したことがある ■ ほとんど参加しない ■ 無回答

- 中心は40代~70代。
(ちなみに「ほぼ毎回参加」の男女比では、男57.2% 女7.9%)
→ 今は男性中心で成り立っているが、10年、20年先の運営も考えたい。

(9)防災・防犯活動（消防団活動など）の参加状況（問4-B）

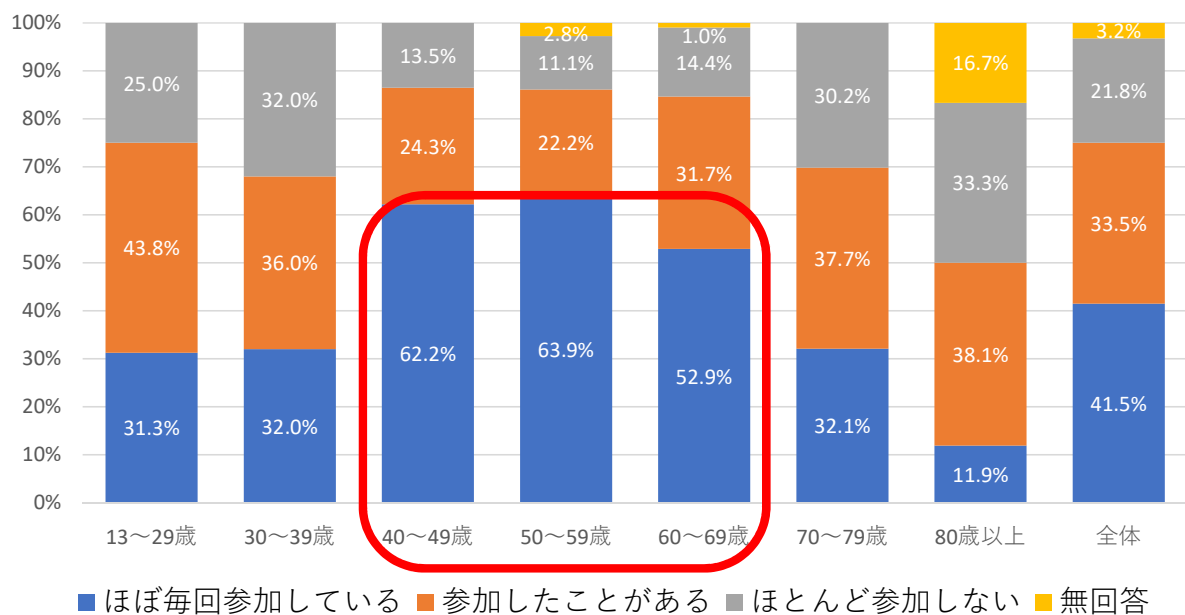
防災・防犯活動参加状況（年代別）



- 中心は40代～50代。
（ちなみに「ほぼ毎回参加」の男女比では、男21.1% 女0.7%）
→ 今後の地域の安全・安心を守る体制などを考えたい。

(10)祭り・イベントの参加状況(問4-C)

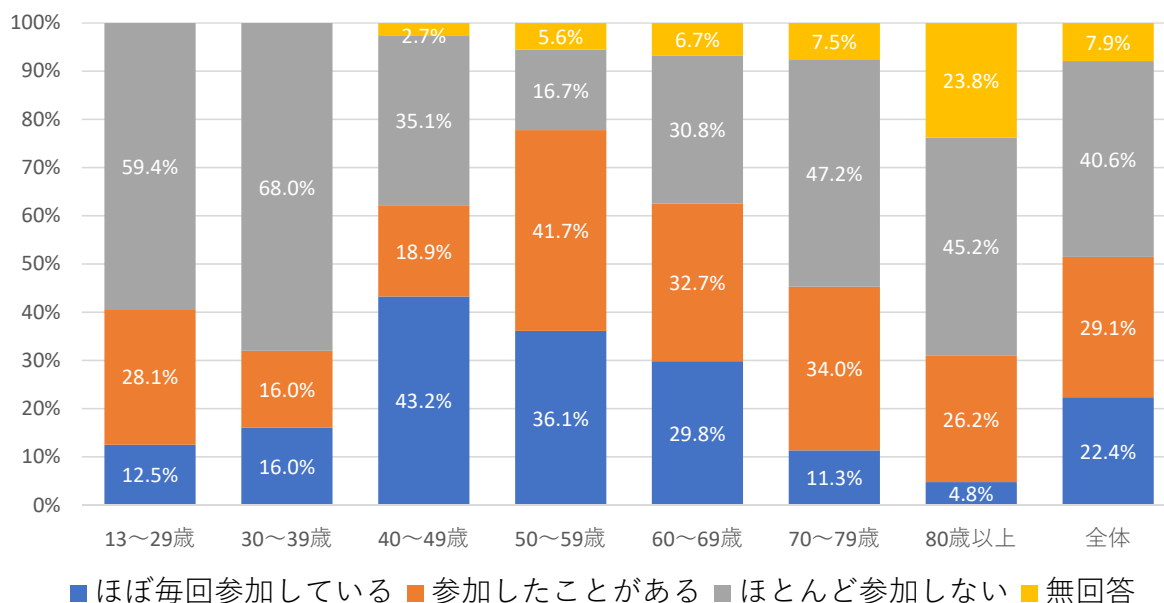
祭り・イベント参加状況（年代別）



- 企画・運営側であることが多いからか、40代～60代が多く参加している。
多くの世代で、何かしら参加している人が多いといえる。
→ アンケートで調べた蓮祭り、歩け歩けなどの参加率は高くない。
これら以外の祭りなどの参加が多いということか？

(11)地域団体活動（子ども会・婦人会など）の参加状況（問4-D）

地域団体活動参加状況（年代別）

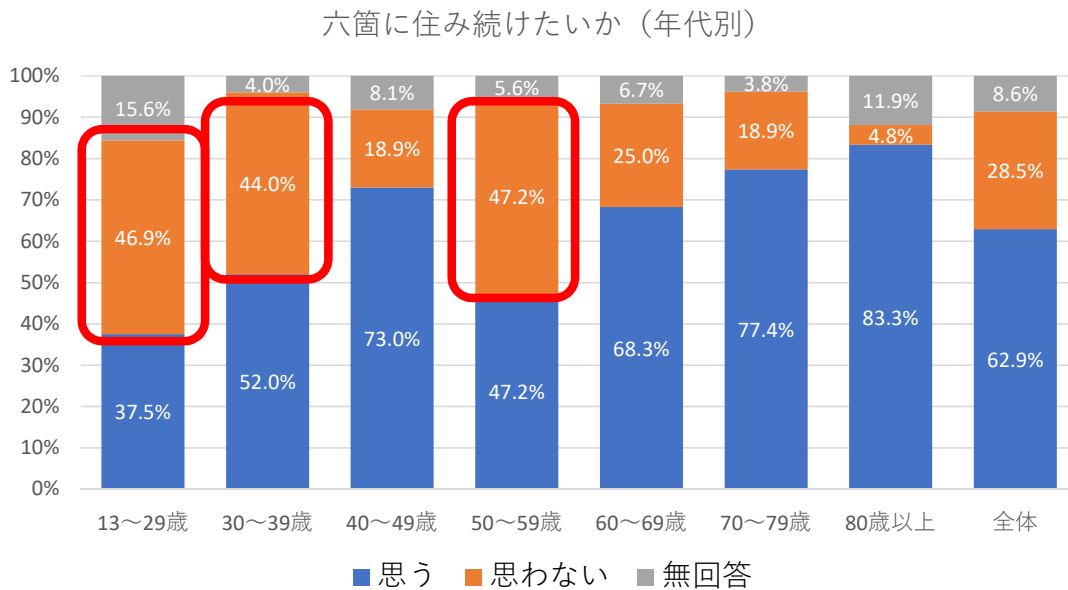


●（ちなみに「ほぼ毎回～」の男女比では、男18.1% 女28.3%）
 → 女性が多めになったのは、アンケートで婦人会や子ども会を例示したためと推察。

(12)知ってほしい、続けていきたいイベント（問7）

- ・ 十七夜祭り
- ・ ほんやらどう
- ・ さいの神
- ・ 秋葉神社祭礼に伴う大般若
- ・ 文化祭
- ・ 春を呼ぶつどい（だんごまき）
- ・ かまくら
- ・ 鳥追い（どんど焼き） ※六箇地区で取り組んでは？という意見も
- ・ 二千年蓮祭り
- ・ 妻有街道歩け歩け大会
- ・ 雪像づくり

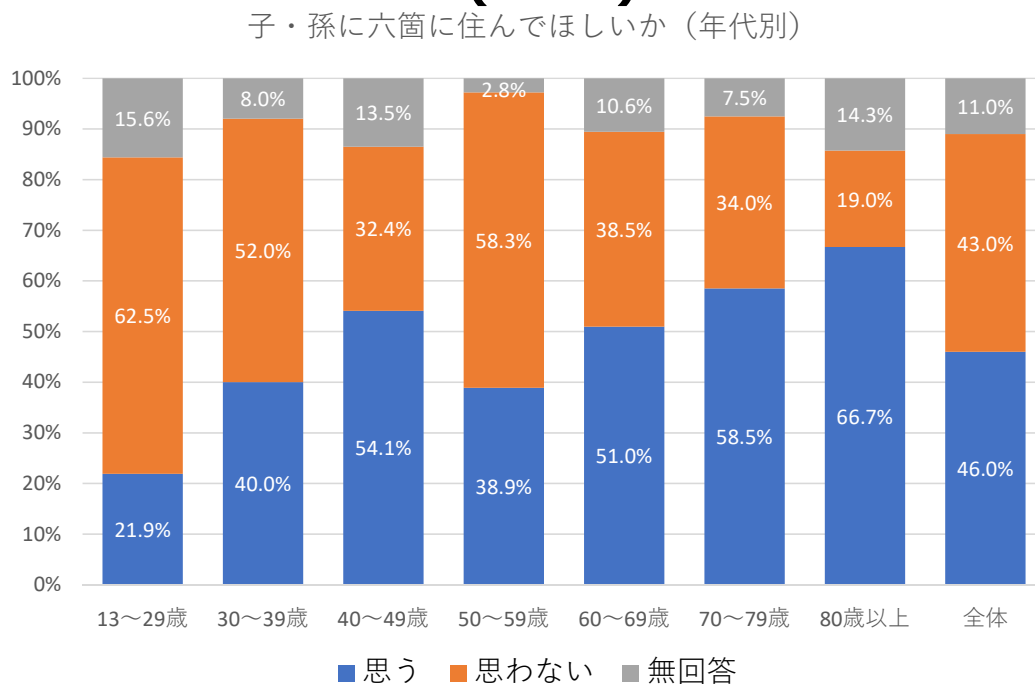
(13) 今後も六箇に住み続けたいか(問11)



- 六箇地区全体では62.9%が住み続けたいと思っている結果に。
→ 人数の多い60歳以上で意見が多かったため。

- 一方、10代・20代・30代・50代は「住み続けたいと思わない」が多い。
→ 「住み続けたい」の割合が高い40歳代から、ヒントが探れないか。

(14) 子世代・孫世代に六箇に住んでほしいと思うか (問12)



- 傾向は「自分自身が住み続けたいか」と同じだが、全体的に「思う」割合が減少。

(15)自由記入

○不安・不満なこと

- ・雪が降っても除雪が行われていないことが多々あり、困る。
- ・バスの本数が少なく、土日祝日は運行しておらず、不便だ。
- ・イベントをやるのはいいが、準備から片付けまであって負担が大きい。無理のない程度でやりたい。
- ・自家用車がないとどうにもならない。今はいいが、車に乗れなくなったときを考えると、とても不便だと思う。
- ・住民の高齢化と人口の減少が見込まれ、もう10年もすると集落の維持管理がとても大変になってくると思う。作業や役員の担い手もさらに不足する。
- ・集落の役員業務が忙しく、家族サービスに支障をきたしている。
- ・若い世代が増えていかないと難しいことが多い。これから地域の活動や交流を行っていただくだけの元気があるのだろうか。
- ・住んでいる限り、地元のイベントに協力する気持ちを全員が持ってほしい。
- ・同世代に会う機会がほとんどない。

(15)自由記入

○やってみたい/こうなったらいい

- ・お祭りなどに参加しても顔や名前がわからない方が多いので、もっと交流の機会があればと思う。
- ・敬老会も川治地区と合同になり、行きづらい人もいるのでは？
引きこもり防止や地域交流のために、集落同士で集まる場（会）があったらいいと思う（食事会や気軽なお茶飲みなど）。
- ・六箇小学校が廃校となり、公民館事業の文化祭もにぎやかさがなくなっている。
隣近所で顔を合わせることも少なくなっているため、年に一度くらい、地域住民が一同に集まり楽しむ場があったら良いと思う。
- ・地域外の人たちとの交流が増えれば、自分たちの地域にさらに自信を持つことができ、地域内での日常会話が広がり活力が生じる。それが今出来る「過疎化・高齢化対策」だと思う。
- ・地域おこし協力隊など外部の人が入れば、地区内での交流が活発になっていいと思う。積極的に外部の人を取り入れてほしい。

地区内や、外部との交流を望む声がありました。
同世代や同性が気軽に集まれる機会が求められているようです。

(15)自由記入

○やってみたい/こうなったらいい

- ・ 日中は高齢者の方が一人で家にいることが多いので、防犯や防災の知識を深めてほしい。
- ・ 「〇〇マルシェ」などのイベントがあれば行きたいと思うし、他の地域からも人が来てくれると思う（おいしいもの、雑貨など。秋葉山の頂上の景色も見物）。
- ・ 限界集落からの脱却のため、身の丈に合った事業の企画推進を。
- ・ 年に一度は災害時の避難訓練などを地区全体でしたらどうか。避難場所の確認など、各集落の役員等で集まって自然災害対策をする必要があると思う。

防災への危機意識を強く持たれている方や「こんなイベントがあったら」という方がいらっしゃいました。

(15)自由記入

○いいところ

- ・ 住めば都、街中よりずっと住みやすいと思う。
- ・ 地域の皆さんが子供たちに声をかけてくださって見守ってくださって、本当にありがたい。
- ・ 高齢で一人暮らしの方も多く、十年もすると集落の維持管理が大変になってくると思うが、体が動く限り若い人をサポートできたらと思っている。
- ・ ご近所のつながり、助け合い精神は強い。

3 サポートチームからのコメント

サポートチームのメンバーが、これまで地域のみなさまとの意見交換やイベント等に参加し、アンケートの結果を踏まえ、今後の方向感やアイデア等をまとめたものです。

アンケート結果の活用及びサポートチームの関わり

アンケートの結果は、みなさまひとりひとりの思いをまとめ、傾向や課題等を含め記載したものです。

今後、地区全体や各集落での集会等でも話題にし、地域のことを考える題材として活用いただけると幸いです。

地域づくりの主役は、言うまでもなくその地域にお住まいのみなさまです。

十日町地域振興局地域づくりサポートチームは、引き続き地域に寄り添い、地域づくりをお手伝いしていきます。

イベントや行事について検討しましょう

- イベント・行事のやり方などについて検討しましょう
 - ・ 主な3つのイベントについては、**予算の削減**が見込まれ、高齢化による**担い手の減少**も懸念されています。
(令和2年度は、3イベント合計で前年度比30万円以上削減の見込み)
 - ・ アンケートの結果も踏まえ、地域のみなさまの理解と協力を得ながら、方向や内容を考えていくことが求められます。

【方針等の内容】

- 若者や女性から企画・運営に参加してもらおう
(→ 女性が気軽に集まれる場づくりから始めたり)
- 他集落・市内・市外・県外からの参加者を増やす
- 六箇地区内の特産品をアピールする
(地区内にお金が落ちるようにする)

プラスアルファの検討もできます

- ① イベントに、楽しむこと以外の目的も設定
地域の課題解決と組み合わせてみる。

(例) 「歩け歩け」は健康増進（介護予防）！

村上市では、こんなこともやっています。

- 地域の運動会 × 防災訓練
- クリスマスプレゼント配布 × 高齢者見回り

- ② 地域の行事・活動の見直し

ある地域は、全体で年間5,000時間も活動していた。

(うち半分以上は会議！)

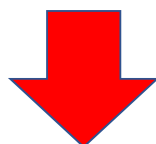
似たような団体の合併、行事の一本化、会議回数削減等、
活動量の見直しにより負担軽減できた。

最初は簡単なイメージでOK！

なんでもイメージ（妄想）してみましよう。

「これ、いけるんじゃないか」と考えて、
具体的な計画が伴って「構想」になります。

100個イメージして、2・3個構想になれば十分！



構想ができたなら、まずは試しにやってみる！

小さな成功があれば、次に発展させていけばOK。

サポートチームからの提案

● 「六箇地区イベントリーフレット」作成

- ・ アンケートでは「他集落のイベント等を知らない」という回答が多かった。
- ・ 「知ってもらおう」→「参加を促す」
→「地区内の交流が活発化」のきっかけづくりにもなる。
- ・ 旧住民に送ることも可能。
令和元年度中に地域振興局が作成し、全戸配布します！

● 地域資源を活用した新規イベントの開催

- ・ 地域を代表する資源（田麦そば）を活かした食イベントを復活させる。
- ・ 更に地域の特産品等を提供することで、人気を上げる。

その他協力ができること（想定）

これまでの意見交換等で出されたものを下表にまとめました。ほかにも、皆様から出されたご意見・ご要望等に取り組みたいと思います。

地区のやりたいこと		チームが協力できること（案）
ほかの地域の取組を知りたい	➡	講師を招いて事例発表会
協力者から資金を集めてみたい	➡	クラウドファンディングの手法提案
イベント内容を見直したい	➡	打ち合わせ段階での相談 見直し検討にあたっては、昨年、サポートチームで参加した妻有街道歩け歩け大会の感想をまとめましたので、参考にしてください。 <u>→本報告書の末尾に添付しています。</u>
外部人材を活用したい	➡	地域おこし協力隊導入に向けた相談

(参考) 第39回妻有街道歩け歩け大会に参加した感想

良かった点	サポートチームのアイデア
<p>【スタッフの対応】 受付や道中案内、移動式関所の運搬、サービス料理の提供など、当日のスタッフの対応や気配りが丁寧でとても良い。</p>	<p>関所での通行証への押印に関する事前説明があると更に良い！</p>
<p>【提供料理】 地元の田麦そばや山賊汁、カルビタマトなどサービスとして提供される料理が豊富で、とてもおいしい。</p>	<p>HPや市広報誌などでうまくPRできれば更に良い！</p>
<p>【子どもの参加】 子ども（小学生～中学生）の参加も多く、休憩所や道中で交流する機会があり楽しい。</p>	<p>20代・30代若者の参加が多いと更に良い！</p>

気になった点	対応案（サポートチームのアイデア）
<p>【イベント周知】 市広報誌や地元紙でイベント周知はしているが、HPは見つけにくく、チラシも広範囲には配布されていないため、地元以外の参加が難しいのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNSによる周知の強化を図ってみてはどうか。 ・市役所や関係機関に対して、積極的にチラシを配布してみてはどうか。
<p>【別コース設定の検討】 全18キロのコースは、体力的に難しい人がいるのではないかと。</p>	<p>体力に自信がない人や初心者、足場の悪い山道を避けたい人用に、途中参加が可能となる距離を短くしたコースの設定を検討してみてはどうか。</p>
<p>【案内看板・コース案内図】 道中の案内看板が少なく、コース案内図もイラストのみのため、地元の人でないと歩くコースがイメージしづらい。</p>	<p>HPによる周知の強化を図り、コースが分かるよう写真や動画を掲載してみてはどうか。</p>



参加者数の増加や参加者の満足度向上に繋がるものの、スタッフの負担増や費用の増加が懸念される。